

水害に強いまちづくりのための

「市中部豪雨災害対策アクションプラン」を作成しました

市の中部を流れる蟹田川、沖之川、小笠沢川の流域は、土地が低く、水がたまりやすい地形であることから、これまでたびたび深刻な浸水被害に見舞われてきました。

市と県では、このような浸水被害の軽減・解消を目指して「市中部豪雨災害対策アクションプラン」(アクションプラン)を作成しました。アクションプランをもとに、水害に強いまちづくりを目指します。

☎建設課河川係 ☎44-3166

頻繁に引き起こされる浸水被害とその原因

市中部を流れる蟹田川、沖之川、小笠沢川の流域は、低い土地が広く分布し、川の流れも緩やかで水がたまりやすい地形であることから、たびたび深刻な浸水被害に見舞われてきました。

平成16年11月には、大雨で行き場を失った雨水により洪水が引き起こされ、3河川の流域で214戸に床上・床下浸水の被害が発生しました。

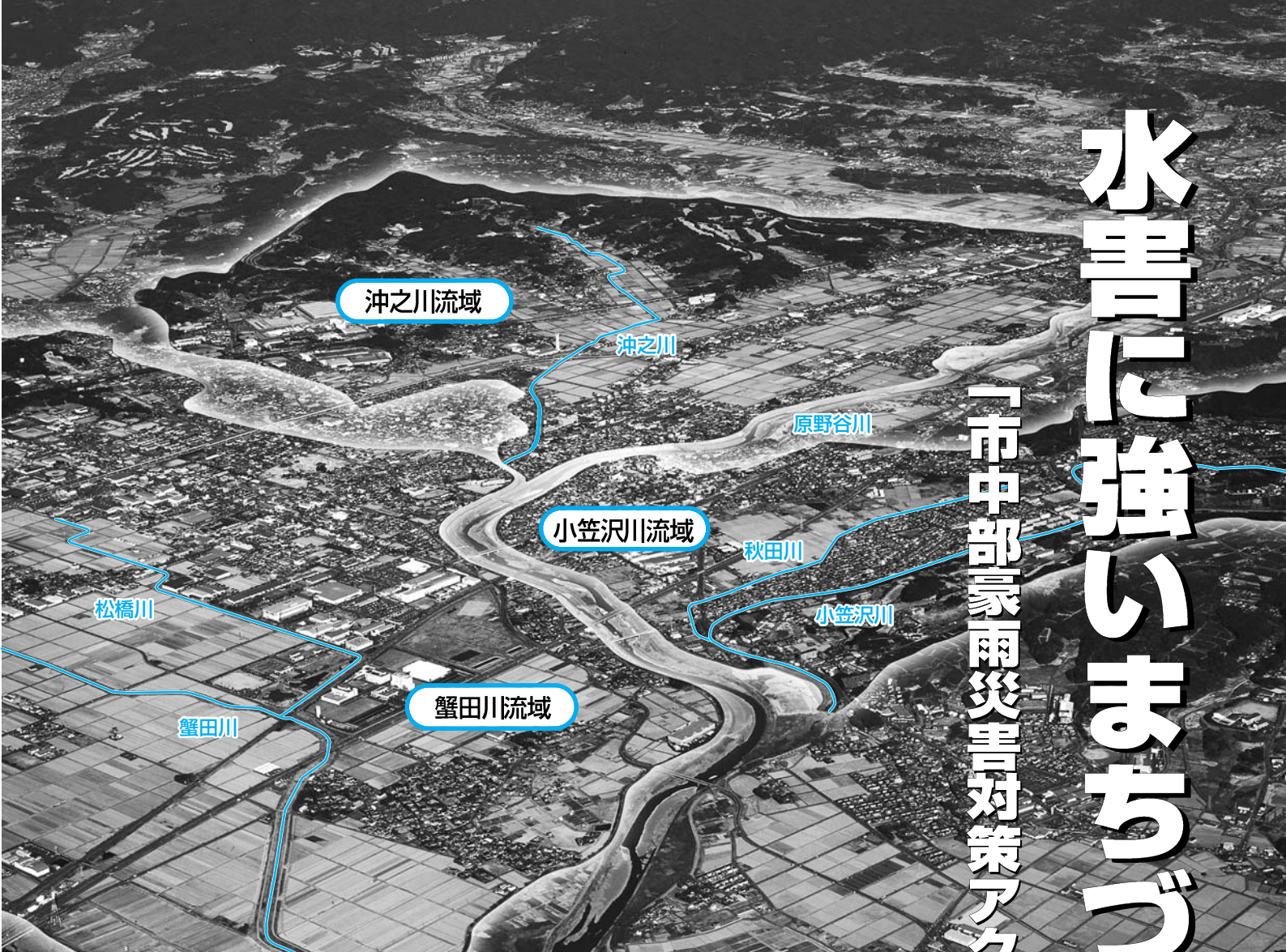
このような浸水被害は、大雨が

降ると急激に川の水位が上昇し、流域に降った雨水が川に排水できなくなることが直接の原因です。

また、都市化の進展により農地や山林が減少したことで、雨がしみこむ地面や雨水を一時的にためる場所が減少したことも、被害拡大の要因となっています。



小笠沢川流域(高南地区)の浸水被害(平成16年11月)



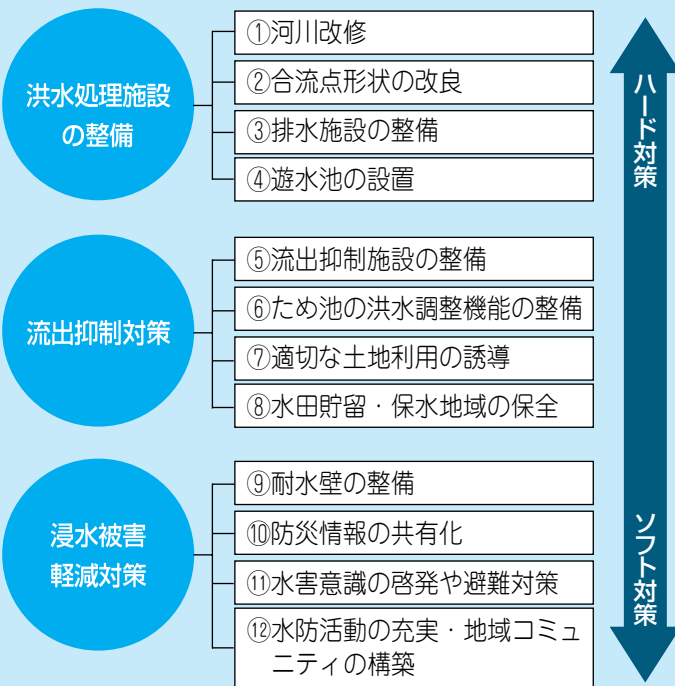
アクションプランの概要

◇アクションプランでは、床上浸水が多発している3流域、6地域を対象に、12の具体的な対策を実施していきます。

対象流域・地区

流域名	主な河川名	床上浸水多発地域
蟹田川流域	蟹田川、松橋川	川井西、新池、田原
沖之川流域	沖之川、鷲巢川、大谷川	大谷川左岸、村松西
小笠沢川流域	小笠沢川、秋田川	高南

対策（具体的な12の対策）



目標

◇平成16年11月の洪水と同規模の集中豪雨が発生した際の

床上浸水被害のおおむねの解消(※)を目指します。

(※) 地形的に床上浸水被害の解消が困難な箇所も存在します。

アクションプランの内容

アクションプランは、このような浸水被害に対して河川や都市計画、農業、防災、道路など治水対策に関係する機関と地域に住む皆さんが、被害の実態や原因、対策の目標について互いに認識を共有しながら、それぞれが取り組むべき具体的な内容を記した共通の「作戦書」です。

今回のアクションプランでは、浸水被害が多い蟹田川、沖之川、小笠沢川の流域地区を対象に、今

後5年間で床上浸水被害をおおむね解消することを目標としています。従来から行ってきた河川改修や排水施設の整備などのハード事業に加え、ため池整備や水田など保水地域の保全、防災情報の共有化や水防活動の充実などの12の具体的な対策を行うことにより、流域を水害に強い体質へと改善していきます。

行政・企業・地域の皆さんの協働事業

アクションプランで定めた具体的な対策のうち、特に防災情報の

共有化や水防活動の充実、地域コミュニティの構築などのソフト対策は、行政だけでなく地域に住む皆さんや企業の皆さんの力が必要不可欠です。市では今後、流域ごとに説明会や懇談会を開催し、浸水被害の実態と原因、対策の内容について意見交換をしていく予定です。

大雨による浸水被害を少しでも減らし、水害に強いまちをつくるため、地域と行政が一体となって積極的に浸水対策に取り組んでいきましょう。

自宅でもできるアクションプラン

雨水貯留槽の設置

◇雨水貯留槽とは、雨どいから集めた雨水を貯留槽へためるシステムです。タンクに貯留すること

で、雨水の流出を抑制します。たとえば水は、植木や花壇の水やりなどに利用できます。



補助金を交付しています

◇市では、浸水防止と資源の活用を促進するため、雨水貯留槽を設置した方に、設置費用の一部を補助しています。

対象 市内に建物（建設予定のものも含む）または、土地を所有している方で、建物に雨水貯留槽を設置する方

補助額 雨水貯留槽の購入、設置にかかる費用の2分の1（上限3万円）

申込方法 市役所3階建設課河川係にある申請書に必要書類（案内図、設置箇所の平面図と配管図、設置工事費の見積書を添えて、お申し込みください。申請書は、市ホームページ（<http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/>）からもダウンロードできます。

問 建設課河川係 ☎ 44-3166